

学校関係者評価委員会の意見

学校関係者評価については「学校自己評価の結果の適切さや、学校自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かを評価するもの」という観点から評価をしていただいた。その結果、自己評価が適切かつ良好であるという項目については、今後も今の取組を積極的に継続するようとの意見をいただいた。また、今後改善が必要な項目については、改善の方法等について出された意見を下記のとおりまとめた。

(7) 開かれた学校づくりの推進 情報発信

学年通信・進路通信・保健だより・図書館だより等、各学年・部で趣向を凝らした通信が多数出されており、情報発信は十分になされていると評価できる。また、その内容についても保護者の方にも読んでいただく体裁になっているが、保護者に十分に伝わっていない現状である。そこで、これだけのものを発行していることを、保護者が集まる入学式やホームページを活用して、広く保護者に知っていただくようにして、さらに多くの読者を獲得することで、学校と家庭との連携を図ることを、今後の課題として取り組んで欲しいとの意見が出された。

また、ホームページはよく活用され、充実してきているので、どの程度の保護者がホームページを見ているのかを一度調査し、ホームページの活用の在り方について検討するとともに、保護者にもっとアピールすることを考えてはどうだろうかとの意見が出された。

(8) 「在り方 生き方」を考える教育の推進 「在り方 生き方」をみつめる

全校集会などで挨拶の大切さをアピールしたり、PTA と共同の挨拶運動等を実施した成果として、挨拶はかなりできるようになった。その結果、生徒がよく挨拶をしてくれるということで学校の評価にもつながっている。挨拶運動、地域貢献活動、心の教育講演会等の取組が、生徒の日頃の学校生活の中で、実践に結びついてゆくように今後も努力して欲しい。

また、授業などの様子を見ていると、生徒があまり積極的に自分の意見を言わないので、スモールディスカッションやロールプレイ等を導入するなどの工夫をして、社会人として必要な能力である、自分の意見をしっかりとと言える力を身に付けさせて欲しい。

(10) 「在り方 生き方」を考える教育の推進 危機管理

危機管理については、不審者情報など学校の中だけでは対応できない部分があるので、学校だけでは責任を果たせない面がある。そこで、第三者機関（地域、PTA、企業、行政等）との連携を図ることを検討してみてもどうかという意見が出された。

(13) 個性や創造性を伸ばす学校教育の充実 教師の指導力向上

大学では授業や教師についての学生アンケートを実施している。しかし、アンケートにはきちんとした意見だけでなく極端なものも含まれるなど、いろいろと問題があるので、生徒アンケートの内容や実施方法等について今後検討していく必要があるのではないかという意見をいただいた。

上記の意見を受けて次年度に向けての課題

- 学校からの配布物、ホームページ等を利用した学校と家庭との連携の在り方について
- 「在り方 生き方」をみつめた取組が、生徒の日頃の学校生活の中での実践につながるかについて
- 学校評価の具体化、保護者・生徒へのアンケートの実施方法等について